

稲沢市の地域福祉を考える意見交換会

令和6年8月6日（火）

A グループ 稲沢市民センター地区

課題（テーマ）：コミュニティの希薄化や担い手不足
タイトル：「おしゃべりから生まれる地域の活性化」

課題に対する意見

・リーダー不足
・主たる者がいない
・組織が解散の恐れがある
・自分に回ってくれば退会する
・誰かがやってくれるだろう
・仕事が多すぎる
・近所の人と話をしない
・近所の人の名前を知らない
・家族葬が増えた
・後継者がわからない
・世代が変わりお付き合いがなくなった
・旧住民と新住民との間の考えの違いによる行政の進め方がスムーズにいかない。特に町内会費、神社等の掃除参加等
・昔あったような中身の濃い組織が少なくなった
・最近では経済状況の厳しさがあり担い手がいなくなった
・区の役員、組織の見直し
・隣とのつながりがない
・他地区からの転居、他地区への転入が多い
・集まる時間がとれない
・地域の情報が届かない・取らない・取れない
・コミュニティ、つながりに興味・関心がない

対策

◎ひきこもり、支援の必要な人

・支えられたい人が手をあげやすいようにするには、地域のニーズを把握することが必要である。支える側の考えで行うものではないと思う。
--

◎子ども、若い世代

・子どもたちを子ども会行事だけでなく他の行事にも参加させ、体験を増やす
・若い世代、子育て世代を巻き込める内容・イベント

◎一人一役

・各地域にあって住民それぞれの特技等を相互に知り合い、住民参加の組織づくりを改めて考え直したかどうか
・地域住民に一人一役ができる活動またコミュニティづくりを進める
・「井戸端会議」の重要性を今一度知る（理解）ことがあってもいい
・サロン会：毎回講師役を変えている。隠れた人材がいるので掘り起こす

◎見守り・声かけ

・コミュニティの希薄：現在、一番地域で欠けているのはコミュニティの希薄であると思う。まず地域の人々で声かけ・あいさつ活動を行うことが大切である。
--

◎まずは参加

・社会参加をたくさんしていただく
・できることから始めること
・難しいことはいきなりできない

◎周知

・地域住民への周知。課題について知ってもらうこと。地域のつながりづくりに関心のある方を募ること。集いの場の周知等。

◎重要

・地域づくりの視点と介護予防の視点両輪で進める
・担い手不足：新たに人材を求めようとしても、既にその人たちは何かのボランティアに携わっている。よって既存の団体にプラスワン活動を担ってもらう方法になるのではないか
・課題に関して関心のある方、地域づくりに興味がある方を見つけて一緒に考える
・今回のようなフォーラムへの一般住民の参加

B グループ 明治・千代田地区

課題（テーマ）：コミュニティの希薄化や担い手不足

◎担い手づくり

・ 従来からの古い考え方の老人が、若手の意見に対して否定的な発言により改良ができない
・ 市外在住の人でコミュニティ活動に関心のある方を募集する。有償ボランティアを募集する。
・ 地域の人の相談役になる人の育成
・ 地域役員に対して任官の拒否、消防団の解散 etc. 従来のコミュニティ維持ができなくなっている。若手が受け入れやすい組織づくり。

◎あいさつ運動

・ あいさつ運動により顔のみえる関係をつくる
・ あいさつ運動の強化
・ 普段からあいさつができる関係づくり

◎多世代交流

・ まちづくり事業が役員主導でなく末端の住民も参画でき、自然に集い皆がつながり合える機会を多く持つ
・ 多世代交流ができる場所づくり
・ 自主クラブと施設入居者とのつながり、コミュニティの発展

◎集い・つながりの場

・ サロンの基準をなしにする
・ つながりの場に参加したいと思っても男気がない。自分のことを知られたくない。
・ AI（パソコン）・スマートフォン等の進歩で生活様式が変化して、人と人とのつながりが希薄化しており、それを踏まえて人と人とのつながりを見直す
・ 地域の行事の復活。一度なくすと復活ができない。
・ つながりが希薄化。顔を合わせる機会が少ない。
・ 人と顔を見て話ができるようなサロンを開けるようになるといいと思います
・ 会長の担い手がないため、各地域の老人会解散が増えて集まりも少なくなっている。地域の集まりとか全然なくなった。
・ 生活重視でつながり・コミュニティの参加ができる

◎創出・継続

・ 交流の機会を作ってやる。チャンスを与える。
・ 続けることが大事
・ 参加したくなる地域行事の創出
・ 何気ない日常生活の中での声かけ、見守りが自然にできる

Cグループ 小正・下津地区

課題（テーマ）：孤独・孤立

タイトル：「大家族を作ろう！！」

◎担い手

- | |
|---|
| ・ 集合住宅ゆえの確認方法。災害時は対策済。平時の孤立を現在口頭で対応しているが、今後は不安。後継ぎがない。私の有効期限内のみ。後任を探すのは難しい。 |
|---|

◎認知症

- | |
|---|
| ・ 認知症になった友人をどのようにサポートしていくことができるか（一人暮らし） |
| ・ 少しずつ判断力がなくなり、家へ帰れなくなった友人へのサポートは？ |
| ・ 高齢の方が体の衰えに合わせて食事が作れないとのこと（心配） |

◎情報共有

- | |
|--|
| ・ 情報提供：孤独・孤立の方は情報不足の方が多く、一人ではなかなか行動できないので、サロン・イベント等の案内をできるだけ多くし参加を促す |
|--|

◎交流

- | |
|-----------------------------------|
| ・ 外国にルーツのある人々との交流。地域のルールを理解してもらう。 |
| ・ 一人暮らしの方たちが集える場を作る |

◎経済

- | |
|---------------------------|
| ・ ひとり親で子育てしている人を支える |
| ・ 貧富の差が大きくなり貧しい人が家で一人で暮らす |

◎ヤングケアラー

- | |
|----------------------|
| ・ ヤングケアラーのこどもたちを助力する |
|----------------------|

◎娯楽

- | |
|--------------------------|
| ・ 豊かになり、定年後一人で遊ぶ方が良くなった |
| ・ 遊び方を知らない（今）。会社人間、定年の延長 |

◎安否確認

- | |
|---|
| ・ 単身高齢者が多い |
| ・ まず声かけ |
| ・ 独居の方の安否確認は、民生委員一人ではなく地域の方々の協力により実施する→具体的には？ |
| ・ ポストにおける新聞、郵便物、DM等の有無の都度確認 |
| ・ 一人暮らしの高齢者の存在を把握する |
| ・ 安否確認が大切 |
| ・ 夜間における照明・外灯の点灯に注意 |
| ・ 洗濯物、戸締り確認 |

Dグループ 大里地区

課題（テーマ）：コミュニティの希薄化や担い手不足

◎個人情報

・グループ LINE の作成
・個人情報を表に出さない。区長として仕事を増やさないため名前を出さない。
・個人情報（例えば電話番号）を名簿に記載するにあたって、事前に紙で了承をもらう
・個人情報って何？TEL は？

◎交流の減少

・世代の分離化
・コロナで行事が中止になり、再開が難しい

◎行政区について

・区長の選出：輪番制やくじ引きなどで選出されると、区長の業務がなかなかできない状況が生じる場合がある
・行政区単位の課題をどのように聞き取るか。意見交換の場のつくり方。

◎集いの場について

・サロン：次のリーダー不足。リーダー依存になってしまう。
・老人クラブ高齢化

◎役員への負担・抵抗

・子ども会加入者が少なくなり、役員の負担が増えた
・まちづくり役員：PTA 役員など学校関係以外の役割（地域の役割）に参加することに抵抗がある。（不満）

◎役員について

・町内役員が退会
・自分の住んでいる行政区の役員については、1 年交代で皆が何らかの役割を担うことになっている。役員のなり手がいない中で一つの方法ではあるが後続性を保つには問題がある。やはり中心となる人材をつくり、その人を一緒になってサポートしていく人を配置できる体制をつくっていく必要がある。
・行政区の下にある組の役目
・役員選出ルール？
・区長名が広報に発表されない？民生委員は発表される。
・〇〇会リーダーの退会で廃止。どのような対策があるか。
・他組織への非協力化

◎解決策

・世代の交流
・長老（相談役）
・順番制であっても役員をしてわかることも多々あると思います。その時に周りの人々が感謝の言葉等を添え、育てていくことがよいリーダーを地域でつくれ、担い手も育つかな。
・役員を育てる

E グループ 祖父江地区

課題（テーマ）：孤独・孤立

タイトル：「一人ひとりの居場所づくり」

◎ケア

- | |
|---|
| ・介護サービスの利用を支援する時、その人の今の生活を大きく変えないようにする（すでに参加している場への活動を止めない） |
|---|

◎訪問

- | |
|---|
| ・「私孤独です」と言う人はいない。孤独でいたい人もいる。『望まない孤独』である人を見つけることは難しい。そもそもそういう人はいるだろうが、そういう人と支える人が出会うことが難しい。望んでいるか否か知る。 |
| ・老人クラブやボランティア団体等の地縁団体で孤立した家へ訪問・声かけを行う |
| ・体が悪く、歩行も困難の方にはその方の家に行って会話するとまた来てね（と言われる？） |
| ・孤独な人は人を避けている人でなく、人が恋しい人なので話し相手になってあげる |
| ・孤立している人は外に出向くのが億劫になっているため、訪問してあげる必要あり |
| ・屋敷に2軒あると実質は1軒ずつ暮らしぶりが異なり、孤独・孤立に悩む方がある。しかし行政は独居と捉えない。ギャップがあるので孤独・孤立を行政地域で認めにくい状況がある。 |
| ・介護の世界でも居宅介護と通所介護があるが、通所できる人は元気な人 |
| ・まずは委員間で積極的なあいさつ履行。地域の皆さんとも声かけ。 |
| ・近所の人のサインをキャッチ |

◎集いの場

- | |
|---|
| ・リサーチ、噂話、情報交換 |
| ・大体の人の居場所を見つけてあげる |
| ・地域の行事に積極的に参加する |
| ・サロンなど、集いの場に参加する |
| ・地域行事へのお誘い・役割 |
| ・人とのコミュニケーションはいつも大事だと思っている |
| ・喫茶店にグループで参加はとても大事 |
| ・友人と喫茶店や食事に出かける |
| ・日頃、友達とのお茶 |
| ・暮らしの気になることを話せる |
| ・何事も人が第一。どんな人間性を会合に参加させるか。否定語を使用する人はだめ。 |

◎気かけ合う

・近所を散歩する
・近所の人にあいさつをする
・おすそ分け、あいさつ、声かけ
・一日人との会話なしでは、一日過ごせない
・隣に住む人に興味を示す
・しばらく姿を見ないと思った時に訪問する？誰かほかの人にも声をかける？警察？
・まずは人が好きになる。どんなことをして好きになるか。
・顔を見た時に声をかける

◎その他

・家族の中で長所探し。妻、こども、孫等
・意欲をなくした人に意欲を持たせるのは無理
・逆の立場で、声かけしてもらおうと安心できる

Fグループ 平和地区

課題（テーマ）：コミュニティの希薄化や担い手不足

○話し会える関係性

・道端で話ができるような状況がなかなかなく、仲良くなれる隣人ができにくい
・地域の方と本音で意見交換ができない
・隣の人に素直に困っている、助けてといえる関係になりたい
・個人一人ひとりには皆優しくていい人のはずなのに

支え手の問題

◎やり方がわからない

・サロン以外の集いの場でも、伴走してサポートできる体制をつくる
・自分が思ってたやれたら良いと思うことがあっても、伝える勇気が出ない。失敗した時がつらいから。
・活動に参加したいという希望はあるが、立ち上げとなると体調の心配等からになっていただける方は少ない

◎個人情報の問題

・個人情報保護法で困っている人のことがわかりにくい
・何か問題が起きた時、必ずネックになるのが個人情報
・家族葬がほとんどで情報が入らない（手伝いで顔を合わせることもない）。ルール変更も必要？

◎担い手不足

・コロナの影響、現状の担い手の高齢化で活動の減少
・老人クラブ、サロン、子ども会、PTA等担い手不足→なくなる
・地域の人々の集まる機会が少なくなっている
・役員など担い手が不足し高齢化が進んでいる
・「組織」の形にこだわらない。役員つくらずにできる取組を。
・老人が多く担い手不足
・一部の人に負担が偏らない組織づくり

現状

・自治会に入らない新しい世帯の増加
・地域と関わりを持ちたくない世帯が増加
・地元の住民と新しく引っ越してくる人とのコミュニケーションの悪さがある

◎対策

・ 既にある地域のつながりを見える化する
・ 開かれた活動を進めるための土台づくり
・ つながりを多様に持つことの大切さを、個人ごとに感じてもらえる機会を多くつくる
・ 地域の皆さんが出たくなる行事を継続、あるいは復活、新規立ち上げを目指す
・ 現在サロンを行っていますが、参加者が高齢化しています。高齢者向けのサロンの実施内容を高める。充実するための方法を考えたい、知りたい。
・ 社会性→社会参加 この大切さを地域で取り組み、みんなに知ってもらう
・ 行事に参加するための交通手段、移動手段を確保したい
・ <お祭りなどイベントの企画が必要>子ども会に入らない子が増えていて交流がない（家族構成が不明）。子ども行事に参加できず不平等感？